

財務省関税局による

と、2016年のイチゴの輸出国別シェアは香港が82.6%を占め、ダントツの第1位。香港の人は甘いイチゴが大好きだ。

経済圏別輸出金額シェアでは、九州圏が48.5%で第1位、近畿圏が38.9%で第2位。実は近畿圏から輸出されるイチゴも、主な産地は福岡県、熊本県、長崎県などが多い。つまり、輸出されるイチゴのほとんどが九州産で、その大部分が香港に輸出されている。

一方、本県産の「どちおとめ」は、2004年に香港向けの輸出を開始した。ほど良い酸味が香



毛塚隆弘氏

香港で人気のイチゴ

本県産の輸出拡大期待

港の人に生まれ、デパートやスーパーで人気を博すようになっていたところ、東日本大震災が発生した。11年3月24日、福島、茨城、栃木、群馬、千葉の5県産食品に対す

への輸入を条件付きで認める命令を公示し、同24日正午(日本時間午後1時)、施行された。これにより本県産の全ての品目が香港に輸出できることとなった。



県香港駐在員便り

●●28

る輸入規制措置が実施され、その後7年、香港には輸出できない状況が続いた。

今年7月20日、立法会(議会)での審議を経て、香港特別行政区政府は茨城、栃木、群馬、千葉の4県産の野菜、果物、牛乳、乳飲料、粉乳の香港

香港は日本の食品・農産物の最大の輸出相手国・地域であるため、今後の本県産農産物の輸出拡大に向けて大いに期待でき、当事務所としても輸出促進の取り組みを支援していきたい。



九福自慢料理北京店にて

産物の輸入停止措置が続いている。香港での規制緩和をきっかけとして、

一日も早い規制緩和が待たれる。こうした中、同28日、ユーユーワールド(宇都宮市)の現地関連会社が、北京市内に「九福自慢料理北京店」をオープンした。輸入規制のため本県

産の農作物を使用できないが、壁には武者絵が飾られ、器には益子焼を使用するなど、栃木らしさが存分に味わえる店づくりになっている。中国の方々も早速来店し、こだわり抜いた料理の数々を存分に堪能しているようだ。

本県は「稼げる農業」の実現には、海外での県産農産物の販路拡大が必要と考え、16年2月に「とちぎ農産物輸出戦略」を策定した。イチゴはマレーシア、シンガポールなどの東南アジアを中心に販路拡大を図ることとしている。昨年度、市場性などを考慮し、イチゴの輸出対象国として米国を追加したが、香港が追加される日もそう遠くないかもしれない。

毛塚隆弘(県香港駐在員)

とちぎ経済

政経部経済担当 電話028・625・1060 ファクス028・625・1